

オーエスキー病診断用酵素抗体反応キット（予備的検出用）

オーエスキー病ウイルスを不活化した抗原をプレートに吸着させ、酵素抗体法によりオーエスキー病ウイルス抗体を予備的に検出するためのキットである。

1 小分製品の試験

1.1 吸光度試験

1.1.1 試験材料

1.1.1.1 被検材料

指示陰性血清、指示弱陽性血清及び指示強陽性血清を用いる。

1.1.1.2 反应用抗原

抗原吸着プレートを用いる。

1.1.1.3 標識抗体

ペルオキシダーゼ標識抗豚 IgG 抗体（以下「標識抗体」という。）を用いる。

1.1.2 試験方法

抗原吸着プレートの各々 3 穴に指示陰性血清及び指示弱陽性血清を、2 穴に指示強陽性血清を 100 μ L ずつ加える。また、2 穴をブランクとする。プレートを密閉して 20~25°C で 30 分間反応させる。濃縮洗浄液を水で 10 倍に希釈した洗浄液 300 μ L ずつで 5 回洗浄する。洗浄したプレートの各穴に標識抗体 50 μ L ずつを加え、20~25°C で 30 分間反応させる。標識抗体を除去した後、洗浄液 300 μ L ずつで 5 回洗浄する。基質原液を希釈液で 110 倍に希釈した基質液を各穴に 100 μ L ずつ加え、20~25°C で 20 分間反応させた後、停止液（付記 1）50 μ L を加え、反応を停止させる。また、ブランクとした 2 穴に水 150 μ L を加える。直ちに 410nm の波長でそれぞれの吸光度を測定する。

1.1.3 判定

被検材料の平均吸光度実測値からブランクとした穴の吸光度の平均値を引いた値を被検血清の平均吸光度値とする。

指示陰性血清の平均吸光度値は、0.1 以下でなければならない。指示弱陽性血清の平均吸光度値と指示陰性血清の平均吸光度値の差は、0.15 以上でなければならない。また、指示強陽性血清の平均吸光度値を指示弱陽性血清の平均吸光度値で割った値は、2.0 以上でなければならない。

1.2 特異性試験

1.2.1 試験材料

1.2.1.1 被検材料

抗原吸着プレートを用いる。

1.2.1.2 対照血清

抗豚熱ウイルス血清（付記 2）、抗豚丹毒血清（付記 3）、参照陽性血清（付記 4）及び参照陰性血清（付記 5）を用いる。

1.2.1.3 指示血清

指示陰性血清、指示弱陽性血清及び指示強陽性血清を用いる。

1.2.1.4 標識抗体

1.1.1.3 の標識抗体を用いる。

1.2.2 試験方法

抗原吸着プレートの各 2 穴ずつに血清希釈液でそれぞれ 20 倍に希釈した対照血清を 100 μ L ずつ加え、1.1.2 の試験方法を準用して試験を行う。それぞれの対照血清の平均吸光度値から S/P 比（付記 6）を求める。

1.2.3 判定

抗豚熱ウイルス血清、抗豚丹毒血清及び参照陰性血清の S/P 比はいずれも 0.4 未満でなけ

ればならず、参照陽性血清のS/P比は0.4以上でなければならない。

1.3 力価試験

1.3.1 試験材料

1.3.1.1 被検材料

抗原吸着プレートを用いる。

1.3.1.2 対照血清

指示強陽性血清及び参照弱陽性血清（付記7）を用いる。

1.3.1.3 標識抗体

1.1.1.3の標識抗体を用いる。

1.3.2 試験方法

指示強陽性血清を血清希釈液で2倍階段希釈し、血清希釈液で20倍希釈した参照弱陽性血清と共に1.1.2の試験方法を準用して試験を行う。

1.3.3 判定

階段希釈したそれぞれの指示強陽性血清の平均吸光度値を参照弱陽性血清の平均吸光度値で除した値が2.0以上を示す指示強陽性血清の最高希釈倍数を力価とする。

指示強陽性血清の力価は、8～32倍でなければならない。

付記1 停止液

46%フッ化水素酸液1 mLに水を加えて400mLとしたもの

付記2 抗豚熱ウイルス血清

豚熱ウイルス GPE⁻株で免疫した豚の血清で、中和抗体価64倍以上のものただし、免疫に用いる豚は、適当と認められた規格の豚を用いる。

付記3 抗豚丹毒血清

アクリフラビン耐性弱毒豚丹毒菌小金井株65-0.15株で免疫した豚の血清で、生菌発育凝集価64倍以上のもの

ただし、免疫に用いる豚は、適当と認められた規格の豚を用いる。

付記4 参照陽性血清

オーエスキー病ウイルス山形S81株で免疫した豚の血清で、吸光度試験法により測定した吸光度値が 1.042 ± 0.100 となるように調整し、凍結乾燥したもの

ただし、免疫に用いる豚は、適当と認められた規格の豚を用いる。

付記5 参照陰性血清

健康な豚から採取した血清で、吸光度試験法により測定した吸光度値が 0.042 ± 0.020 となるように調整し、凍結乾燥したもの

付記6 S/P比

指示陰性血清の平均吸光度値をN、指示弱陽性血清の平均吸光度値をP、対照血清の平均吸光度値をSとして、S/P比は、下記の計算式により算出する。

ただし、Nは0.1以下でなければならない、P-Nは0.15以上でなければならない、指示強陽性血清の平均吸光度値を指示弱陽性血清の平均吸光度値で除した値は2.0以上でなければならない。

なお、対照血清の平均吸光度実測値からブランク穴の平均吸光度値を減じたものを対照血清

の平均吸光度値とする。

$$S/P \text{ 比} = \frac{S-N}{P-N}$$

付記7 参照弱陽性血清

オーエスキー病ウイルス山形S81株で免疫した豚の血清で、吸光度試験法により測定した吸光度値が 0.189 ± 0.040 となるように調整し、凍結乾燥したもの
ただし、免疫に用いる豚は、適当と認められた規格の豚を用いる。